

令和7年度第4回 刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会会議録

日 時 令和8年2月17日（火） 13:28～14:40

場 所 1階 101会議室

委 員 塚本 松本 宮田 福島 今井 三輪 杉浦 坪井 松浦 南川 中根 近藤

事務局 加藤直 杉浦 木下 磯村典 羽田野 加藤良 細山 加藤貴 磯村真 岩上
神谷 平野 喜田

刈谷市基幹型地域包括支援センター 河合

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 江口 門澤

意見・質疑等

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 刈谷市高齢者等実態調査の結果概要について（資料1）

【説明】 事務局

【質疑応答】

会 長 冒頭の5ページ、機能判定について、一般高齢者の約3割に転倒経験があるということで、今後の対策に生かす必要がある。要支援認定の原因でも転倒が多い。介護予防についても重要な視点である。

次回の懇話会が開催される来年度の6月には、すべてのアンケート結果が出てくると考えてよいか。

事務局 そのとおりである。

会 長 6月の懇話会前には、早めに目を通せるように資料を送っていただきたい。

委 員 運動器の評価は65歳以上の結果がひとまとまりになっているが、前期高齢者と後期高齢者で分けてみると、特徴がみえるのではないか。

会 長 転倒リスクが年齢ごとに変わるかというのは、クロス集計により細かく分析されていくものと思われる。

委 員 4ページには“活動に参加しない理由”、15ページには“利用したいサービス”についての回答があるが、サービスへの興味関心はある一方地域の活動などには参加していない方が多いように思う。そういった方が実際にサービスを利用しようとした場合

に、ハードルが高くなっているように感じる。

会 長 介護が必要な状況になると、家族も含め情報を集め始める。わかりやすい情報提供が、これから介護サービスを利用する人たちには重要になると思う。介護保険サービスだけでなくインフォーマルなサービスも一体的に考えていく必要がある。

委 員 要支援・要介護では結果に違いがあると思うので、振るい分けて集計してもらえると良い。介護職員の制度外の仕事が増えており、負担に思っているという回答もあるので、その点に向けて手当て等があるとよい。

会 長 内容が浮かび上がってくると検討できる。自由回答もあるので、量的調査と合わせてみていく必要がある。人材不足と言われているので、専門職の人には専門的な仕事をしてもらえると良い。

委 員 シェドウワークについて、市役所関係のことはケアマネに言えばなんとかなると思っている人が多いと感じる。書類関係、電話対応など、事務的なことはお手伝いがあると良い。

会 長 家族関係などを背景に、手続きなどが高齢者だけで前に進められない人も増えている。一番に相談相手にケアマネがあがってしまう。場合によっては業務範囲外で身動きがとれなくなることがあり難しい。相談機能をもつのがケアマネではあるが、どこまで受け入れてどこまで断るのか、整理が必要である。

委 員 地域の活動に参加する、したいという高齢者が少ない。どうすれば参加者が増えるのかについて地域で話し合っているが、頭を悩ませている。良い解決策はあるか。

会 長 土台として、それらを議論できる場があることが重要である。継続して地域で議論していくことが重要。

委 員 人材確保について、介護職の負担軽減のため介護補助となる人材を確保しているが、どこまで仕事をお願いできるのかなどは悩ましい。色々な職種の方を受け入れられる体制、枠組みを作っていけたらよいと考えてはいるが、なかなか難しい状況である。

(2) 地域包括支援センターについて (資料 2-1、2-2)

【説明】 事務局

会 長 地域包括支援センターの運営に関しても、本懇話会が評価をする場となっている。

委 員 センターごとにグラフがあるが、評価はどのようにみればよいか。また、80%であればよいのか、できている・できていないかで評価点数が出されているのかがわからない。

事務局 あくまでも自己の業務を振り返るという目的である。やっている内容が同じでもできていると思う包括、できていないと思う包括がある。4つのうち3つが○ならば75%、という結果の出し方になる。国には○か×で報告するため、部分的にできているようなものの回答は悩ましい。

委 員 それぞれの包括の結果を横並びで確認はしないのか。

事務局 全包括の回答は確認可能であり、回答内容の確認やヒアリング等は実施している。

(3) 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金について(資料3)

【説明】 事務局

【質疑応答】

委員 評価指標④の平均介護度について、介護度の変化が小さい方がいいのか変化が大きい方がいいのかどちらか。

事務局 変化が大きくなると、介護予防に関する取組の成果が表れていないという評価をされることになるため、変化が少ない方が評価は上がることになる。

会長 介護予防もすぐに結果は出ない。この評価では、採点対象となる人も変わっていくため、介護を使わない元気な高齢者を増やすことが配点を上げる取組と言える。

4 その他

事務局 特段の事情がない限り、今年度の本懇話会は今回が最終回となる。次回は令和8年6月の開催を予定している。詳細については決まり次第通知する。

5 閉会

会長 本日の議題については、これですべて終了した。これにて令和7年度第4回の刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会を閉会とする。